P2-034

2 型糖尿病患児の成人移行に向けた多職種協働〜知的障害を持つ子どもの移行支援〜

高橋 美奈子

日本医科大学武蔵小杉病院

【はじめに】近年、子どもの生活習慣の急激な変化において小児の生活習慣病が増加している。2 型糖尿病の治療基本は生活習慣の見直しと肥満の改善、薬物治療である。しかし途中で治療を中断してしまうことも多々あると報告され、中断によって合併症の出現および重篤化が考えられるため、患児と家族の闘病意欲の向上もしくは維持し長期的に見守っていくことが重要である。今回、軽度知的障害を持ち生活習慣の改善が乏しい子どもの成人診療科への移行を踏まえ、病状の悪化予防と現状維持を多職種にて協働支援した実践を報告する。

【事例】A ちゃん 17 歳支援学校 2 年生　12 歳で 2 型糖尿病と診断されインスリン導入。軽度知的障害あり、人見知り自己表出が苦手。自己注射の手技、内服管理は自立しているが外食中心の食生活、深夜までゲーム、休日は布団から出てこない状況で、体重増加と血圧の上昇を認める。父親は疾患に無関心であり、母親は家事に無関心だが定期受診は欠かさない。

【実践】長期休暇による自宅での生活習慣が病状悪化につながる可能性があるため、長期休暇の前後に多職種による合同カンファレンスを行って予防対策を講じた。夏季休暇は週二回支援学校に登校日を設けて活動を促し、冬期休暇は登校日を設けられなかったため訪問看護師が訪問回数を増やし、病状と生活状況の把握に努め助言および病院への報告を行った。支援学校と病院は血糖値やインスリン量について適宜情報交換を行った。外来看護師は学校と医師の間の連絡調整を図り、受診時には母と A ちゃんに療養状況を確認した。A ちゃんが病気について理解したうえで通院の必要性を感じ、単独での受診行動および自炊が可能か査定し適宜短い面談を重ねた。支援学校卒業後に利用可能な社会資源を探索し、今後の支援状態が分解しないよう地域社会とも情報共有を行った。

【考察】知的障害のためヘルスリテラシーが低く家族もまた十分なヘルスプロモーションが欠如していた。生活習慣の是正が現状では困難であり、今後本人が家庭から離れ自立を目指す場合、今以上の多職種による支援が必要であると考える。今後、成人診療への移行準備を行うにあたり地域社会において支援学校に代わるセーフティネットの探索、A ちゃんの特性を考慮した生活支援、そして院内では移行期支援として小児科と成人診療科との連携が課題として挙げられる。

P2-035

認定こども園における食物アレルギー研修会と保育への達成感

弓気田 美香

駒沢女子大学　看護学部　看護学科

【目的】近年、就労を望む保護者の子どもが保育所に入所できないことが社会問題となっている現状を鑑み、厚生労働省、文部科学省は新たな保育のあり方を提言し、認定こども園が設立された。認定こども園への移行を決めた幼稚園では、新たに 0 〜 2 歳児保育を行うこととなり保育方法の転換が求められ、特に給食を提供することで、食物アレルギー（以下 FA:Food Allergy）児への対応に困難が生じている。FA は 0 〜 1 歳に発症することが多く、乳幼児の 10 人に 1 人が診断を受けている。これまで経験の少なかった除去食の提供や FA 児への生活面での支援、緊急時の対処など、新たな知識や技術が求められ、認定こども園現場では混乱が生じている。そこで、新たに認定こども園となった園に対し、FA の病態や緊急時・日常生活での対応、保護者対応などの研修会を行い、保育士の職業への意識や自尊感情などにどのように影響するのかを明らかにすることで、今後の認定こども園への支援の在り方を検討することができると考える。

【方法】認定こども園の保育士・幼稚園教諭 15 名を対象とした FA 研修会を実施し、研修会前後で質問紙による調査を行った。調査内容は、経験年数や研修会への参加経験とバーンアウト尺度、自尊感情尺度などで実施した。調査開始に際しては研究者の所属機関の倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】保育士･幼稚園教諭の経験年数は平均 13.1 年であった。5 名が FA 児の保育中に「ヒヤリ・ハット」の経験があり、誤配膳が 1 名､誤食が 1 名､誤食以外での症状の出現が 3 名であった。7 名が FA 児の保育で困ったことがあると回答し、自分自身や保護者の FA に関する知識不足などが原因と考えていた。FA 研修会には 10 名に参加経験があり、13 名がさらに研修会に参加したいと希望していた。バーンアウト得点では、困った経験がある人の平均点が 2.27 点、経験がない人は 2.16 点で経験のある人の方が高い傾向にあった。研修会終了後には、経験ありが 2.44 点、経験なしが 2.16 点で経験ありが高くなる傾向が見られた。また、自尊感情得点では、経験ありのが 2.50 点、経験なしが 2.53 点で差はなかった。

【考察】バーンアウト得点は、研修会後の方が高い傾向にあった。FA 研修会で新たな知識を得たことで、保育士としての達成感が低下した可能性がある。研修会を行う際には、達成感が向上されるよう、これまでの保育を支持する内容を含めるなどの配慮をする必要がある。

Presented by Medical*Online